

昭和五十一年九月招集

第三回館山市議会议定例会會議録第五号

館山市議会议



# 目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
認定第一号ノ認定第七号	二
議案第六十号	一五
議案第六十一号	一六
日程の追加	一八
請願第二号撤回の件	一八
閉会	一八
本日の会議に付した事件	一八

一、昭和五十一年九月二十七日（月曜日）午前十時開議

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十七名

一番 吉田 勇治郎 二番 伊藤 幸太郎

三番 矢野 寿夫 四番 押元 稔

五番 黒川 平治 七番 本間 昭二

八番 松下 正己 九番 鈴木 槇

〇番 流山 源次郎 一番 近藤 好雄

二番 栗原 一雄 三番 林 豊

四番 石井 輝久 五番 辻田 実

六番 安西 益男 七番 石井 武敏

八番 渡辺 軍治郎 九番 渡辺 昭夫

〇番 和田 一郎 一番 田中 禄郎

二番 五十嵐 昇 三番 菊井 敏博

四番 西村 真次 五番 伊賀 多朗

六番 藤田 益治 七番 遠山 ヨネ子

二八番 石井 正

一、欠席議員 三名 六番 鈴木 正義 二九番 望月 照正

三〇番 山口 康

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第五号）



昭和五十一年九月二十七日午前十時開議

認定第一号 昭和五十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和五十年年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

日程第一 認定第四号 昭和五十年年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和五十年年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和五十年年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

日程第二 議案第六十号 館山市教育委員会委員の任命について

日程第三 議案第六十一号 館山市教育委員会委員の任命について

開 議 午前十時九分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十六名、これより第三回市議会定例会第五日の会議を開会し直ちに本日の会議を開きます。

## 議案の配付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはありませんか。―配付漏れなしと認めます。

本日の議事は、お手許に配付の日程表により行ないます。

## 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和五十年年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和五十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和五十年年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和五十年年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和五十年年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和五十年年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

## 決算審査特別委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） 本決算は共に去る九月二十一日に特別委員会を設置し付議されたものであります。



よって、これより本決算に対し、決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長 豊君ご登壇願います。

(二三番議員林 豊君登壇)

〇 二三番(林 豊君) 認定第一号乃至第七号昭和五十年各会計決算にかかる決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果につきまして報告申し上げます。

去る二十一日の本会議におきまして、本委員会に付託されました決算につき、二十二日委員会を招集し、慎重に審査を行ないました。

申し上げるまでもなく、本決算につきましては、すでに監査委員により厳格なる監査が実施せられ、その計数は正確であり、予算の執行は適法かつ効率的になされている旨の決算審査意見書が付されておるところであります。本委員会といたしましては、決算の重要性にかんがみ、さらに議会の立場より審査を行ないました。

まず、審査に当たりましては、提案説明にも述べられておりますように、本年度におきまして、前年度繰り上げ充入金三億余万円を措置したこと。加えて低成長経済の影響から予定した歳入が得られず、年度最終補正において二億六千余万円を減額、その結果、当初予算額を下回る決算を遂げ、まことに異例ともいふべき財政運営であったこと等、かかる現況認識のもとに予算の執行に際し、いかに行政効果を図ったかを中心として審査を進めたのであります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして審査の概

要をご報告申し上げます。

まず、一般会計歳出におきまして議長並びに市長交際費の支出の内容について説明を求めましたところ、議長交際費については、各種団体の行事に対するもの四十件、慶弔関係十七件、接待関係三十件、議長会等渉外費十九件、その他二十三件であり、市長交際費については、慶弔費九十六件、各種団体事業に対する助成百三十四件、接待関係四十六件、県、その他の陳情関係十一件、行事の協賛、広告その他百二十一件の支出であるとの説明がありました。

次に総務費中、災害等罹災者見舞金として火災、交通事故の被害者四十一世帯に対し支出されておりますが、犯罪等に巻き込まれ、被害を受けた者に対する見舞金制度を確立する考えはないか。ただしましたところ、犯罪による被害者の補償については、企業爆破事件等から国において検討しているようでありまして、市においては補償制度までは考えられないが、見舞金については検討してもよいとの考えが示されました。

次に防犯灯の設置につきましては、かねてより議会におきましてもたびたび増設の要望があり、本年度五十万円をもって三十九灯設置されておりますが、なお多くの必要個所が見受けられるので一層の努力を要望いたしました。

次に民生費、社会福祉総務費中、各種見舞金、手当、助成金が計上されておりますが、福祉の充実が市長の重点施策でもあり、物価上昇に見合い増額できないかとの質問に対しまして、これらの諸制度は、生活を保障するものではなく、それを補完する制度であるので、現在のところ妥当と考えている旨の説明がございました。



た。次に保育園保育料について最高額が三万円以上に達してあることから、これを低く押えるため、市がもっと負担できないかについて伺いましたところ、基本的には負担能力に応じた負担をすべきものと考えるが、市においては国の基準より軽減しているし現在の財政状況では、これ以上軽減できない旨の回答がありました。

次に衛生費中、と畜場会計への繰出金が支出されておりますが、と畜場については、その運営の実態から広域圏移管の方向が打ち出され、議会においても確認されておるところでありまして、その後の進捗状況について説明を求めましたところ、と畜場については、広域化の方向が正しい運営であるとの考えから、鴨川のと畜場との合併について広域市町村圏を通じて交渉したが、了承を得るに至らず、現在のみま合理化を図る方法、食肉組合に委託する方法の三つについて検討しており関係者と話し合いをしている旨の説明がありました。

本委員会としては、と畜場の適正な運営確保につき一段の努力を要望いたしました。

次に水道費中、繰出金二千万円が未執行となっておりますが、これが水道料金の改定に影響を与えたのではないかと、伺いましたところ、この二千万円については、五十一年度への支払い繰り延べ措置による不用額でありまして本年度の繰り出しは建設勘定への出資金で営業補助ではないので、水道料金には関係ない旨の説明がありました。

次に労働費中、報償金二十万円が計上され、全額不用額となっておりますが、その理由について説明を求めましたところ、従来

市内の事業所に勤務している県外の勤労者を励ます行事を年一回市民センターにおいて実施しておりましたが、財政事情から中止したものであるとの説明がありました。しかしながら、中小事業所従業員の雇用安定を図る観点より重要な施策と考えるので、今後慎重に対処されるよう要望いたしました。

次に農林水産業費中、農村青年グループ育成補助金として4日クラブに対し補助金が支出されておりますが、後継者育成が最も重要な課題であるとき、育成補助はもとよりその指導に万全を期せられるよう要望いたしました。

次に畜産業費中、家畜公害対策としまして、し尿の乾燥施設に対する利子補給制度により現在まで三十棟を実施して参りましたが、なお、有効利用と合わせて抜本策についても畜産奨励委員会を検討中である旨の説明を受けました。

本委員会としては、効果測定はむずかしいと思われるが、酪農者等全般にわたる対策を検討され、所期の目的を達せられるよう要望いたしました。

次に水産業費中、クルマエビ、アワビの放流事業に対する成果につきましては、すでに議会においても明らかにされているところであります。然し種苗の入手困難から事業の拡大が図れないとの説明を受けておりますが、水産資源開発のため一層の努力を要望いたしました。

次に商工費中、中小企業資金融資制度については、有効な運用が図られておりますが、中小事業所従業員が独立開業に必要な資金の貸付制度を設けることにつき、市当局の見解を求めましたところ、担当課、商工会議所等と十分相談の上検討したい旨の考え



が示されました。

次に観光費中、北条海岸ヤシ並木の管理委託料が支出されていますが、維持、管理は十分に行われているかとの質問に對しまして、現在枯れているヤシもあり、現状のまま同じような管理を継続することも若干問題があると考えられるので、枯れている部分については、ヤシとの調和を図りながら、他のものに変えていきたいという方向で検討中であるとの説明がありました。

次に消防費中、備品購入費の不用額について説明を求めましたところ、当初、団服購入の予算を計上しましたが、消防団幹部の自発的な好意により作業衣購入に変更したための不用額であるとの説明を受けました。

次に教育費中、放送センターにつきましては、機械器具等の集中管理体制が確立されておりますが、より一そう効果的な運営を図られるよう要望いたしました。

次に公民館につきましては、分館の建設もほとんど終了し、社会教育の拠点として活動が大きく期待されておりますが、少ない活動事業予算であるので、その執行に当たっては、十分意を用いられるよう要望いたしました。

次に歳出におきます不用額につきましては、予算現額四十五億六百四十三万二千円に對し、八千九百二十六万八千四百八十二円で、各款にわたり質疑されましたが、個々の内容を検討してみますと節約によるもの、あるいは入札残によるもの等がおもなものでありまして、行政効果に支障を及ぼしたものではありませんと考えますが、今後予算計上に際しては、的確なる積算と計画的な執行に努力されるよう要望いたしました。

次に国の委任事務等にかかる超過負担について説明を求めましたところ、超過負担については、いろいろな考え方があるが、保育所費、児童措置費関係で千七百万円、農業委員会費において人件費を中心に千六百十五万二千円、国民健康保険特別会計において事務費として千五十八万二千円であるとの説明を受けました。超過負担については、国においても逐次解消を図っておりますが、地方財政の現状にかんがみ、さらに国に対する強力な運動の推進を要望いたしました。

次に歳入市税であります。本会議において説明のありましたとおり、徴収率につきましては、経済事情の悪化により九六・二%と前年度を下回り、収入未済額も多額に上っておりますので、税負担の公平と財源確保の観点から、これが徴収に一段の努力を要望いたしました。

次に市営住宅使用料につきましては、不納欠損額四万九千七百円収入未済額五十九万四千四百円が計上されておりますが、この内容について説明を求めましたところ、

本年度末収入未済者、二十二名、うち七名が過年度分も未納しております。現在まで八人が完納、四人が一部を納入しておりますが、今後建設課と協議し、個々の実態を把握の上整理に努力いたしたい。また不納欠損については十五件、時効により処分したものであるとの説明がありました。

次に国民健康保険特別会計であります。保険税については、収入未済額三千百二十二万余円が計上され、滞納がふえる傾向にあるのではないかと質問に對しまして、国保税の収納率については、一般市税よりさらに落ち込みが大きかったが、八月末現在



次に水道事業特別会計におきまして、房州水道買収による三芳水道からの受水、量水器の取りかえ、夏の水対策等の投資は買収に伴う損失と考え、買収価格が高かったのではないかとの質問に對しまして、水量についても予想以上にあり、三芳水道からの受水も当初計画を下回っておりまして一年間運営した実感としてその様には考えていないとの答弁がありました。

今後、市当局におかれましては、財源の確保と合理的な執行により支払ひ繰り延べ措置等の早期解消に努められ、もつて市民福祉の向上と市勢の伸展を図られるより希望するものであります。

ここに決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について報告申し上げます。

議長（吉田勇治郎君）　以上で、委員長の報告を終わります。

御質疑ごさいませんか。――御質疑なしと認めます。

議長（吉田勇治郎君）これより討論を行います。

(一五番議員辻田実君登壇)

〇一五番（辻田 実君）　ただいま御報告のございました決算委員会の慎重審議の報告に対して若干の意見を申し述べ、同時にこの委員会報告にございましたように御承認をいただきたいという旨について、私は五十年年度決算に対して反対の意見を申し述べたいと思うのでございます。

まず第一に、五十年度決算につきましては、私は予算執行上基本的に多くの問題を残しておると思います。そのうち、私は四点を取り上げまして意見を述べたいと思つうわけでございます。

まず第一に、市長は五十年度施政方針の中において、五十年度予算編成に当たりまして人間尊重、市民生活優先を市政の根本理念といたしまして予算を編成されたわけでございます。そして、市民生活の向上を目指し、生きがいのある香り高い文化福祉都市の実現を期したいということでございます。

そうした観点に立つて予算が編成され、予算の執行があったわけでございますけれども、この中で、私はまず第一に問題にいたしたいのは、支出繰越金三億三千万の実質赤字を出したことでございます。その内容を私はつぶさに検討しなければならぬと思っております。

第一が、実質支払い繰越金の第一が給料でございます。八千六百二十五万円の支出繰越金を出しているわけでございます。人件費は決算で見ますと十四億八千万円の支出になつてゐるわけで



ございます。これを四十九年度の決算で見ますると十四億八千六百五十九万円でございしますから、四十九年度から五十年年度にかけての人件費の支出は約四百九十二万円の総体的な減があるわけでございます。これが第一点。

次に、市長は繰り上げ充用をするときに、次のような答弁をいたしているわけでございます。「人勧による給与改訂を私どもは一二%か、一三%というふうに予定をいたしております」と、「これが一五%程度になります」と、二、三%の財源不足が生ずることもあり得る」このように市長は明らかにしているわけでございます。しかし現実的には、国の人事院勧告は一〇・八、県の人事委勧告が一〇・六%の実施であつたわけでございますから、予算編成時におきましますところの一二%か、一三%の人勧に耐え得るだけの予算を繰り込んで置いたことは明白でございます。しかしながら、実際には今回は県の勧告に基づいて実施したわけでございますから一〇・六%、約二%減のペースアップであつたというふうに予算上判断をしなければならぬということがあるわけでございます。

次に、開発公社の一億六千九万円の支出繰越金でございます。

この繰越金については四十九年度は一億一千万円があり、これを繰り上げ充用によって処理されております。その際、開発公社の借入金金利が高いので減らしたいという強い態度を市長は示しておるわけでございます。

当時、私は繰り上げ充用をするに際して、繰り上げ充用ということは非常にまずいと、市の赤字を出したということについてはあらゆる面からぐあいが悪いということの中で、一億一千万円の

繰り上げ充用は支出繰越金にしたらどうかということに対して、ただいま申しましたように、金利が高いので開発公社といえどもこれは支払い繰り越しはしたくありませんということを五十年五月の臨時議会の中において明らかにしているわけでございます。

しかるに、今回におきましては、昨年の四十九年度の一億一千万を越すこと約五千九万円の支出繰越金をしておるということはまさに一年たらずして、このように全く正反対の処置を予算上執行することについては、私は予算執行上正当とは思えないわけでございます。

次に、二番目の柱といたしまして、歳入の見込み違いによる一億六千二百九万円の収入減を指摘しなければならぬと思うのでございます。

補正予算でもって減額いたしました額が九千七百七十九万円の減額でございます。そしてさらにこれだけ減額したにもかかわらず収入未済額が六千四百三十万円もあるわけでございます。予算減額並びに収入未済額の総計は一億六千二百九万円ということが当初予算よりも出ておるわけでございます。補正予算では市税を一億二千六百八十二万円の減をいたしてあるにもかかわらず六千三百六十二万四千円も出ておるわけでございます。

当初予算に対する決算額の減は市税、娯楽施設利用交付金、地方交付税、財産収入、諸収入があるわけでございますけれどもこのように収入見込みが一億六千二百九万円も減つておることについては、これは予算執行に対しての市の施策ないし取り組みについて、私は大きな失敗といえますかあったんではないか。



元来、このような大きな収入見込みを生ずるということは、よほど異常な事態の中でなければならぬことでございまして、施政方針演説の中においても、五十年度的な中において経済の情勢は必ずしもいい状況にない、苦しい中においてわれわれは取り組んでいかなければならないということでございまして、こうしたところの市税を初めとする娯楽施設利用交付金、財産収入こういうような点については十分対策を立てた上において編成された予算であり、なおかつそれが減額された上においてこのように不用額を出すということについては、これは非常に問題があり、このような決算報告を提出すること自体について、私は市当局に大きな反省をうながす次第でございします。

三番目に、民生費の大幅の伸びで教育費を抜く予算を今年度は組んだということでもって市の広報に発表されておるわけでございします。しかしながら、教育費は五十年度が十一億一千二百七万円で、昨年よりわずかながら減額されております。と同時に、当初予算に対しては一億一千二百六十七万四千という減額があるわけでございます。

こういう意味では、やはり民生費並びに教育費等において予算がほとんど去年同額ということでありまして、昨年から今年に開するところの諸物価の高騰等に見られるこれらの値上げ分に対するところの差額補正が十分なされておらないんじゃないかというふうに思われるわけでございまして、こうした面について若干の問題があるんじゃないか。この点については、次の四番目の柱として繰り上げ充用の解消ができておらないという点の中において明確にいたしたいと思ひます。

市長は、昨年の五月の臨時議会の中において次のように言っているわけでございます。「先ほど、財政課長から御答弁申し上げましたように、五十年度の繰り上げ充用をいたしましたが、五十年で、単年度で解消できるだろうという大体の目安を立てております」ということで、市長は繰り上げ充用の解消を五十年度において解消するということを再三にわたりに答弁しているわけでございます。

しかしながら、五十年度の決算額を見ますに、先ほども若干触れましたように、不用額が八千九百二十六万円も出ておるということでございます。この不用額がどのような科目においてなされておるかということを見えますと、教育費について二千九百八万円の不用額を出しているわけでございます。二番目には、衛生費において二千五百二十七万円の不用額を見せておりまして、この合計額の約六千四百万円というのがほとんどその主要であるということでございます。

次に、減額予算といたしまして、九千七百七十九万円の減額予算をしているわけでございます。そのベスト四を見てみますと、土木費が一億九千八百二十三万円、教育費が一億一千二百六十七万円、農林水産業費が二千八百六十二万円というふうに、こうしたところの教育、福祉、市民生活につながる予算において大幅な減額予算がなされたということ。そして、衛生費において二千六百三十三万円の減額がなされておるわけでございまして、このように五十年度当初予算の中に出しましたところの市民生活の向上という面から、こうした市民生活と密着した予算について大幅な減額予算がなされたということ。その上に立って、なおかつ教育、



衛生費において不用額を八千九百万円も出したということについては、私は非常に乱暴な予算執行であったというふうに考えざるを得ないのでございます。

そうして、この総体は、当初予算額に対して決算額が一億一千七十二万円の収入減でございます。この点については、先ほど決算委員長が御報告のあったとおりであるわけでございまして、このように当初予算に対して異例ともいふべき決算が一億一千万の減額の中で処理されなければいけなかったということについて指摘したいわけでございます。

次に、繰り上げ充用に対しましては、昨年五月議会の中において、館山市においては二十九年と三十年度に繰り上げ充用をいたしておりますが、二十九年度におきましては、繰り上げ充用をいたした額は二千四百十三万四千円、それから三十年度が繰り上げ充用の額が千四百十五万二千円、これが行われたというふうに財政課長から説明がございまして、同時に「大体二十九年度におきまして二千四百万の繰り上げ充用額は、当時の予算は一億六千万程度でございますし、したがって一五%というふうに考えられます。それを現在に引き直しますと約七億円近くになるうと思ひます。現在、繰り上げ充用をいたしました額は三億でございます。それも大半が土地の売り払いを執行しなかったためのものでございまして、二十九年度、三十年度の赤字の原因とはその内容を異にしております。したがって、私どもは五十年度中におきましてほぼ完全解消をいたしたいというふうに考えております」とこのように明らかにされておるわけでございますけれども、今回実質的赤字がありながら、未払い繰越金として処理をしたわけで

ございます。そして、昨年の繰り上げ充用についてはあたかも解消してわずかながら黒字が出たということを強調されておるわけでございますけれども、こうしたことは、いま申し上げましたように、かなり内容的に間違いがあるように思ふわけでございます。

そして、市長は、さきの議会においていま申し上げましたことにつながりまして、「その財政事情でございますけれども、いろいろ財政当局ともいろいろ相談いたしましたんですが、先ほど財政課長から御答弁申し上げましたように、五十年度の繰り上げ充用をいたしましても、五十年で大体解消の目安を立てております」と、そうして「私は、市長がかわるということは、ある意味で気分を一新する。政治に対する、市政に対する気分を一新することでもありますし、やはり実態を明らかにすることの方がより館山市の将来に向かって、将来の発展に向かってその方が正しいんだという政治的な信念に基づきまして繰り上げ充用をいたしたわけでございます。」というふうに締め切っているわけでございます。

昨年は、このように政治的信念に基づきまして、繰り上げ充用をすることが適切だということを指摘しておきながら、本年におきましては、繰り上げ充用をいたすことによって決算報告にわずかながら黒字を出すということにおいて、昨年の五月議会と今回におきましてこの決算報告においては、まさに別人的な報告がなされておるわけでございまして、こうした政治姿勢に対して私は反省をうながすものでございます。

私は、やはり議会において報告した事項というものは尊重され、そうして議会と執行部が一体となって議決された予算の執行に当



たならなければならないというふうに考えておるわけでございまして、そうした意味においては五十年年度の決算報告は、まさしく所信と結果において百八十度も方向の違う形で出されておるといふことについては承服しがたいのでございまして、ただいま申し上げた点におきまして、五十年年度決算報告の委員長報告に対して、承認を願いたいという点については私は反対するものでございします。

以上、非常に粗雑な討論になりましたけれども、反対討論にかえさしていただきます。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 次に、賛成の討論ございせんか。

(一二番議員栗原一雄君登壇)

○一二番(栗原一雄君) 認定第一号昭和五十年年度館山市一般会計歳入歳出決算認定について賛成いたします。

ただいま、決算審査委員長の報告により委員会に付議されました案件に対し、各委員の慎重な質疑内容が細部にわたり説明されましたので了承できました。

過年度の歳入欠陥に伴う繰り上げ充用、さらには昭和四十八年後半における石油ショック以降は日本の経済が低成長長期に突入しており、当該年度はそれら諸般の条件が悪化しており、一般行政に大きな影響を与えておりますので、きわめて厳しいものがございしましたが、全般的な運用について市民に直接影響を受けないもの等は支払い繰り延べ等で措置されており、一部には予算の流用措置がされたものが見受けられますが、本市の財政構造の立て直しと健全化を図る意味からもやむを得ぬ適切な措置であると考えます。

以上の理由により賛成いたします。(拍手)

○議長(吉田勇治郎君) 次に、反対の討論ございせんか。

(一八番議員渡辺軍治郎君登壇)

○一八番(渡辺軍治郎君) 私は、認定第一号昭和五十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について反対の討論を行います。

昭和五十年年度決算は歳入四十四億二千九十六万七千八百八十七円、歳出四十四億一千七百十六万三千五百十八円、差し引き三百八十万四千三百六十九円の黒字になっていますが、四十九年度の赤字三億五百八十二万二千円が五十年度に繰り上げ充用され、他に未払い分の繰り延べ等もあって、五十年度に支払いの予定されていた人件費、その他三億三千二十万五千円の支出を五十一年度に繰り延べているので、実質的には三億二千六百四十万六千三百一十円の赤字となり、財政事情の厳しさを反映しています。

監査委員の決算審査意見書は、この点に触れていないので遺憾の意を表明します。

五十年年度決算の特徴は、四十九年度の赤字三億五百八十二万二千円の繰り上げ充用のほかに未払い金の繰り延べもあったとはいえ、予算執行に当たって、歳出面で総額五億一千九百五十七万九千円の減額補正をした上に、八千九百二十六万八千四百八十二円の不用額を出し、歳入面でも総額三億五千三百五十二万円を減額補正し、六千四百三十三万三千八百八十九円の収入未済額を出しています。これは地方財政法のたてまえから見てきわめて不正常的な財政運営になっていることを指摘したいと思えます。

予算の執行状況を構成比で見ると、民生費は一・三%の増になつていますが、農林水産業費、土木費、教育費等いずれも減少し



ています。これは四十九年度の赤字財政を引き継ぐ中で、政府自民党の総需要抑制政策により地方財政を極力圧縮するという方針に基づいて執行されたもので、財源配分の保証されない自治体財政の現状を示したものとなっています。

市長は、五十年度の施政方針で人間尊重、市民生活優先を市政の根本理念とし、環境の改善、教育の振興、福祉の充実、産業の振興、観光の開発等を重点施策として示しましたが、これらの施策は全く進展していません。

福祉関係を見ても、心身障害児助成金は十五万六千円で、一人当たり小学生が二百円、中学生が三百五十円、交通遺児手当は七十四万七千円で一人三千円、生活保護世帯歳末見舞金は五十九万円で一人二千円、長期療養者見舞金は九万六千円で一人二千円になっています。それぞれ制度的な保障があるといっていますが、それ自体僅少な額で、物価との関係で見れば全く少額に過ぎません。

零細企業で働いている恵まれない労働者を励ます会合費二十万円も全額不用額になっています。

教育関係の備品購入費、需用費も合計で三百六十五万三千円が不用額になっています。市長はないそでは振れないといっているが全国どこでもやっていない教育テレビの有線放送には三千八百六十五万八千円を支出しています。反面、老朽危険校舎が六校も放置されています。災害時に学校が避難場所になっているが、学校そのものが危険個所になっています。これは教育以前の問題であります。この不均衡を是正するためにも、また市の財政事情からも放送センターを廃止し、老朽危険校舎の改築を年次計画をもつ

て進めるよう主張します。

次に、固定資産税、都市計画税の収入未済額が三千二百五十八万五千八百五十五円あります。この額は収入未済額全体の五〇%を占めています。これは不況とインフレの中で営業と生活が困難になっている反映と見られます。固定資産税は所得に関係なく課税されるので、低所得者にとっては過酷な税負担になっています。したがって、人間が生存に必要な一定の土地、建物に対しては、所得に応じた免税点を設けるよう主張します。

次に、問題なのは、法的根拠のない便宜的規則による支出についてであります。地方自治法では行政事務の処理は条例で定めなければならないとし、また規則は法令に違反しない限度で制定することができるとしています。

行政事務を町内会長に委託するために五百二十九万四千四百八十円支出していますが、この法的根拠はありません。規則では行政事務を円滑にする目的で支出、町内会長は市長から委託された事務を掌理する義務を負わされています。市長は横の連絡とか、住民の協力を求めるのは当然といっていますが、それはまた別の問題であります。自主的、民主的組織である町内会を行政の足に利用することは許されません。現に市から要請された寄付金やごみ収集料金の徴収まで合意しているということで押しつけられ、町内会が上意下達の機関となっています。これは民主的組織である町内会の自主性を破壊し、民主主義に逆行するもので容認できません。改めるよう主張します。

また、納税組合奨励金は市税、年金、国保と合わせて二千一万四千七百九十円支出されていますが、これも法的根拠のない便宜



的な規則によるものです。規則では、納税組合長は市税等の納付書の送付を受けたときは、期日内に取りまとめ、収納集計票を添えて確実に納付するよう市税の徴収と収納を義務づけられています。これに地方自治法第二百四十三条に規定された私人の公金取り扱いの制限に違反するもので、市税の徴収、収納事務が公金の取り扱っていないなどというのは全くの論弁であるばかりでなく、重要な市の固有事務を住民に転嫁する二重の誤りであります。

次に、市道舗装に対する地元寄付金百六十五万四千円、消防関係寄付金三百一十一万円についてですが、市道の維持管理や消防は公共的な市の固有事務であって、その負担金を一部の地元から一定の率で割り当てて徴収するということは、地方自治法第十条二項や、消防組織法第八条に違反するもので容認できません。これらの寄付は中止するよう要求します。

以上、問題点を指摘しましたが、地方財政を圧迫するものとして、国や県の行う事業に対する負担金が繰り延べを含めて四千七百万円もあります。地方財政法第九条の原則に基づいて廃止するよう主張します。

また、保育所費、農業委員会、教育費だけでも四千万円の超過負担があります。このすみやかな解消を政府に要求するよう主張します。

五十年年度決算は実質三億三千万円の赤字となり、地方財政危機の現状をかえていません。これを打開するために、日本共産党は当面地方交付税率を三二%から四〇%に引き上げ、その配分を民主的、合理的にすること、上下水道、住宅、学校、保育園等の建設に対する国の補助率を大幅に引き上げ、補助単価を実勢に即し

たものに改めるよう主張します。

根本的には、地方自治権を確立するため、機関委任事務を大幅に地方に委譲し、財源の保証をすることを要求し、昭和五十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対するものであります。

次に、私は、認定第二号昭和五十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について反対する討論を行います。

五十年年度決算は、歳入九億九千八百二十七万三千九百九十四円、歳出九億五千五百二十万六千六百三十七円で、差し引き八千三百六万三千六百七十二円の黒字になっていますが、その内容は前年度の繰越金四千三百二十万一千円に、本年度約四千万円の黒字を追加したもので、一而では保険税の取り過ぎになっています。

予算との関係では、保険給付費で千八百九十万三千円の減額補正をし、四千四百四万四千六百四十一円の不用額を出しています。

これは予定した医療費の値上げが次年度に実施されることによるものですが、毎年保険税の値上げが予定され、国保財政の厳しさを示しています。

歳入面で、保険税の収入未済額が三千百二十二万二千七百三十円ありますが、不況の反映と見られ、重い税負担になっていることが考えられます。特に、事務費の超過負担千五十八万二千円は保険税にはねかえるので、すみやかに解消するよう要求するとともに、保険税を軽減するために国庫負担金、補助金をそれぞれ五%ずつ引き上げるよう主張し、昭和五十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対するものであります。

次に、私は、認定第七号昭和五十年年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定に反対する討論を行います。



損益決算書は五千五百三十四万八千四百十円の損失になっていますが、内部留保される減価償却費千六百四十九万七千八百九十七円と、企業会計に属する企業債の利子二千九十万五千九百五十七円、合計三千七百四十万三千八百五十四円を差し引けば実質的には千七百九十四万四千八百八十六円の損失ということになります。支出の面で三芳水道からの受水費が千七百一十一万一千四百三十円ありますから、この受水料に相当する分が損失となっています。

五十年四月一日房州水道を一億円で買収した際、私は反対しました。その理由は、日本水道協会が査定評価した七千四百万円に無形の貢献度をプラスして一億円に評価したので対して、私はマインス面の評価として作名ダムが完成するまで三芳水道に受水料を支払わなければならないこと。一千個を越える不良量水器の取りかえ、施設の古い給配水管の整備等の経費を差し引けば五千万以下の評価になると主張いたしました。その後の実績は夏の断水時間給水で配管の悪い面が暴露され、現在でも下水排水路の中に配管が放置されています。このような給水サービスの低下した中で水道料金の値上げに反対しました。また、五十年度予算には夏の水不足に対応する事業費が計上されていない点を指摘して反対しました。

五十年度決算は、房州水道を買収し、不良量水器の取りかえ、受水費の増大等水道会計に負担を増大させ、水道料金の値上げにもかかわらず、実質的に一千八百万円の赤字を生む結果になったことに強い不満の意を表明して、昭和五十年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定に反対するものであります。

以上で討論を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に賛成の討論ございませんか。

（一四番議員石井輝久君登壇）

○一四番（石井輝久君） 私は、認定第一号昭和五十年一般会計歳入歳出決算を認定することに賛成いたします。

まず、昭和五十年度決算歳入額四十四億二千九十六万七千八百八十七円は、同年度の末において財政事情の悪化によって二億六千四百二十九万九千円の減額補正をして、かろうじて決算における歳出額四十四億一千七百十六万三千五百八十八円とすることを得たのであります。その単年度黒字額が三百八十八万四千三百六十九円となったというのが本決算書であります。したがって、もしこの減額補正なかりせば単年度赤字は膨大な額に上ったことは言を待ちません。

ただし、その内容は、さきに私の質疑でも明らかであります。半沢市長の方針のもとに各課長が結束してその方針を堅持され、節約につぐ節約によって八千九百二十六万八千四百八十二円を不用額として捻出され、よく財政難克服という至上目的に沿われたものとして評価されると信ずるものであります。

しかしながら、その執行に当たり市民に迷惑を及ぼさなかったとはいいながら、内部的には多少の反省を要する点もうかがわれ将来の問題としては一考を要する点があるかと思われるのであります。

また、質疑の間に明らかでありますように、形式的ではあります。が、決算の認定に当たっては地方自治法第二百三十三條、同法第二百三十三條の二、同法施行令第六十六條、同令第六十六條の二等の法令により適切に処理さるべきであるのに、若干適切を



欠く点が見られましたが、これは将来の問題として処理される旨でありますので、当局の説明を信頼したいと存じます。

さらにまた、質疑の間に明らかになりましたとおり、単年度黒子、実質収支に関する調書にある三百八十万四千三百六十九円は明らかに実質収支ではなく、全くの形式収支であり、実質収支は支払い繰り延べ分三億三千余万円があり、さらに私の試算では四億五千万を上回る実質赤字があることを指摘せざるを得ません。

なお、補助金につきましては、その実態の追跡調査において若干欠けるうらみなしとしません。ことに、私はさきに質疑で明らかにいたしました救急医療業務推進についての補助金は、事柄の重大性にかんがみ、特に今後の問題として慎重かつ真剣なる検討をしなければならぬと思うのであります。

さらに、指摘しなければならぬ点も若干ありますが、特別委員会の慎重審査もありましたのでこの程度でとどめ、全体として市民から市政を負託されている半沢市政が、本決算の認定に当たって掲げられたもろもろの問題を、次年度以降の市政の執行に反省材料とされるであろうことを特に期待し、半沢市政が続く限り市民の市民による市民のための市政に敢然と当たられることを強く要望しつつ賛成討論といたします。

なお、認定第二号ないし第七号につきましては、いずれも賛成するものであります。

満場の議員各位の御同意を望むものであります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採

決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行います。採決に当たりましては分割して起立により行います。

まず、認定第一号昭和五十年年度一般会計決算について採決いたします。

認定第一号についての委員長報告は認定すべきであるとするものであります。委員長報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、昭和五十年年度一般会計決算は委員長の報告のとおり認定することに決しました。

次いで、認定第二号国民健康保険特別会計決算を採決いたします。

認定第二号についての委員長報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、昭和五十年年度国民健康保険特別会計決算は委員長の報告のとおり認定することに決しました。

次いで、認定第三号ないし第六号各特別会計決算を一括して採決いたします。

認定第三号ないし第六号についての委員長報告はいずれも認定すべきであるとするものであります。委員長報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。



(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立全員であります。よって、認定第三号ないし第六号の各特別会計決算はいずれも委員長長の報告のとおり認定することに決しました。

次いで、認定第七号水道事業特別会計決算を採決いたします。認定第七号についての委員長長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数であります。よって、認定第七号昭和五十年年度水道事業特別会計決算は委員長長の報告のとおり認定することに決しました。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、議案第六十号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案第六十号 館山市教育委員会委員の任命について

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 説明を求めます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 議案第六十号の御説明を申し上げます。  
現教育委員の吉田政弘君は今月三十日をもって任期満了いたしました。

ますが、同君は人格、識見ともにすぐれており、教育委員として適任と考えますので再任いたしたく、ぜひ満場の御賛同をたまわりますようお願い申し上げます。

○議長(吉田勇治郎君) 説明は終わりました。

質疑応答

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑を願います。

○一八番(渡辺軍治郎君) 御質問したいのは、吉田さん個人の問題ではありませんが、最近、幼稚園の入園について教育委員会が何か制限をしているように聞いております。というのは、これは一例であります。小児ぜんそくの子供が入園を希望して、受付番号では相当前の方にあつたんですが、

(「議案外」と呼ぶ者あり)

そういう診断書を教育委員会に出させるというようなことを、教育委員会としてやっていると云うようなことを聞いています。現在までの教育委員会がそういうことに対して制限をするというやうな不平等な取り扱いをしていることについて聞いています。が、そういう事実があるのか、ないのかをお聞きしたいと思ひます。

(「議案外」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 一八番議員さん、議題からはずれているやうでございますが、御案内のように教育委員選任の件の審議でございますので、質疑でございますので、御了解願いたいと思ひます。

○一八番(渡辺軍治郎君) そういう問題があるから、言わば、再



選ですから信任になると思うんですよ。そういう内容があるので信任できないような面がありますから、それでお聞きしたわけですね。

○市長（半沢良一君）　ただいまの御質問のようなことはないと信じておりますけれども、なお教育委員会に問い合わせまして調査いたしたいと思えます。

○一八番（渡辺軍治郎君）　調査するということですからあれしなくては、実際そういう差別といえますか、そういう取り扱いを受けた人がいるわけですから、これは一人ではなしに二、三人あるようですから、そういう点をお聞きしたわけです。

○議長（吉田勇治郎君）　他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君）　お諮りいたします。

本案を委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。

### 討　　論

○議長（吉田勇治郎君）　討論を行います。

○一八番（渡辺軍治郎君）　ただいま、質疑で申しましたように、これは新しく教育委員として出るわけではなくて、再任というういふ形になりますから、一応いままでの教育委員会の実績なり、そういうものを対象にして考える必要があると思うんです。

先ほど申し上げましたように、幼稚園に入園を制限するのは学区外から入る場合と、定員がいっぱいで受け入れできないようなこの二つの点があると思うんですが、そういう点ではなしに、医師の診断書を出させて、小児ぜんそくということで診断書を書き直して持ってきていということで、しかもその取り扱いはかなり横暴な取り扱いであったように聞いております。したがって、これは教育委員会の姿勢の問題になると思うんです。ですから、教育委員会全体の問題であって、教育委員もその中の一人として責任を負わなければならない問題だと思えますので、この選任に対しては再任ということでありますので、反対いたします。

○議長（吉田勇治郎君）　他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。

### 採　　決

○議長（吉田勇治郎君）　採決いたします。本案に対する採決は起立により行います。

教育委員任命について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君）　起立多数であります。よって、教育委員任命について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

### 議　案　の　上　程

○議長（吉田勇治郎君）　日程第三、議案第六十一号館山市教育委



員会委員の任命についてを議題といたします。  
議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案第六十一号 館山市教育委員会委員の任命について

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 説明を求めます。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 議案第六十一号について御説明をいたします。

現教育長安田豊作君は教育委員としての任期が今月三十日をもって満了いたしますが、同君は教育経験も豊かであり、人格、識見ともにすぐれており、教育委員として適任と考えますので再任いたしたく、ぜひ満場の御賛同をたまわりますようお願い申し上げます。ける次第でございます。

○議長(吉田勇治郎君) 説明は終わりました。

御質疑を願います。

御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

討 論

○議長(吉田勇治郎君) 討論に入ります。

○一八番(渡辺軍治郎君) 先ほど申し上げましたように、北条幼稚園に入園する問題に対する取り扱いの問題で、非常に問題が出ております。そのことを先ほど取り上げましたが、五十年年度決算書の認定でも明らかにしましたように、老朽危険校舎が六校も放置されてゐる。その反面では、教育テレビの有線放送というように全国どこでもやってないようなそういう不均衡な状態があります。放送センターがなければ教育できないというような問題ではないと思ひます。特別委員会の質疑の中では、放送センターのあることによって教育が振興されるというようなことは聞いております。これは当然だと思ひます。ないよりはあった方がいいと思ひます。しかし、現在の館山市の財政事情からいって果してこれはいかどうか。

しかも、危険校舎がある中で、災害のときに学校が避難場所指定されている。危険校舎、校舎そのものが危険な存在になつてるところに避難場所がきめられているという教育以前のような問題が不均衡の形で館山市には存在している。このことは、教育委員会の教育行政の一端を示していると思ひます。

私は、決算の認定の中でもこの問題を取り上げましたが、館山市の教育行政を進めるに当たつて、非常に独善的なそういうものがあるのではないか。先ほど申し上げました幼稚園の入園児の取り扱いについて、おれ一人反対すれば、入園させないこともできるんだというような、そういうことを言つてゐる人もいますというこ



とを聞いています。こういうような教育委員会の姿勢を正すためにも、安田教育長は教育長として責任のある立場にあったと思ひます。

そういう点から考えまして、今回の再任という形になります。この任命に反対するものではありません。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案に対する採決は起立により行います。

教育委員任命について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

### （賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって、教育委員任命について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

## 日 程 の 追 加

○議長（吉田勇治郎君） この際、申し上げます。

経済委員会において継続審査中の請願第二号館山、北条、八幡海岸の飛砂公害防止に関する請願書について、請願人代表者より撤回したい旨の申し出がありました。

この際、請願第二号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、この際請願第二号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

## 請 願 書 の 撤 回

○議長（吉田勇治郎君） 請願第二号撤回の件を議題といたします。お諮りいたします。

ただいま議題となりました請願第二号撤回の件については、これを承認することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、請願第二号撤回の件については、これを承認することに決しました。

## 閉 会

○議長（吉田勇治郎君） 本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第三回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

一、議案第六十号、議案第六十一号

一、日程追加・請願第二号撤回の件



地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 吉 田 勇 治 郎

館山市議会議員 石 井 輝 久

館山市議会議員 石 井 武 敏



